

水稻品種「月の光」

1 来歴

- (1) 育成地 愛知県農業総合試験場
- (2) 交配組合せ 黄金晴／「青い空×北陸103号」F1
- (3) 品種登録年次 昭和61年

2 特徴

- (1) 育成地における成熟期は中生の中、強稈、良質で、イネ縞葉枯病抵抗性を有する水稻粳種である。穂いもち・葉いもち圃場抵抗性は中である。
- (2) コシヒカリと比較し、出穂期は5、6日、成熟期は早植が9日、普通期は5日遅い。稈長は短く、穂長は長く、穂数はやや少なく、草型は中間～偏穂重型である。多収であり、4か年9調査の中でコシヒカリ比120%を下回る結果は2回(104%、118%)のみであった。

表 奨励品種決定調査における成績

作期	品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	精玄米収量 (kg/10a)	比較比率 (%)
早植	月の光	8.15	10.4	83	21.7	295	571	155
	コシヒカリ	8.9	9.25	96	20.2	306	368	100
普通期	月の光	8.28	10.25	76	21.6	291	507	118
	コシヒカリ	8.23	10.20	92	19.2	324	430	100

注) 1. 数値は早植:昭和58~60年の3か年平均値、普通期:昭和57~60年の4か年平均値
2. 移植期は早植:5月17,18日、普通期:6月17,18日

水稻品種「あきだわら」

1 来歴

- (1) 育成地 農研機構 作物研究所
- (2) 交配組合せ 関東188号(ミレニシキ)／越南176号(イクヒカリ)
- (3) 品種登録年次 平成24年

2 特徴

- (1) 育成地における成熟期は中生の晩、良質、良食味、多収を兼ね備えた水稻粳種である。穂発芽性はやや難、耐倒伏性やや強であるが、イネ縞葉枯病罹病性、いもち病に弱い。
- (2) コシヒカリと比較し、出穂期は7日、成熟期は12日遅い。稈長は短く、穂長は同等、穂数は少なく、草型は偏穂重型である。2か年とも600kg/10a前後の収量と安定している。

表 奨励品種決定調査における成績

作期	品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	精玄米収量 (kg/10a)	比較比率 (%)
早植	あきだわら	8.11	9.22	85	20.8	329	602	118
	コシヒカリ	8.4	9.10	98	20.2	427	512	100

注) 1. 数値は平成17, 18年度の平均値

2. 移植期は5月11, 12日

水稻品種「やまだわら」

1 来歴

- (1) 育成地 農研機構 作物研究所
- (2) 交配組合せ 泉348/関東192号
- (3) 品種登録年次 平成24年

2 特徴

- (1) 育成地における成熟期は中生の中、多収、炊飯米の粘りが弱い特徴を生かした加工用向け水稻粳種である。耐倒伏性は強いが、穂発芽性はやや易であり、イネ縞葉枯病罹病性、いもち病にやや弱い。
- (2) 除草剤成分ベンゾピシクロン、メソトリオンおよびテフリルトリオンに感受性のため、使用する除草剤には注意が必要である。
- (3) 早植はコシヒカリと比較し、出穂期は7日、成熟期は18日遅い。稈長はやや短く、穂長は同等、穂数は少ない。普通期はキヌヒカリと比較し、出穂期は5日、成熟期は13日遅い。稈長は短く、穂長は長く、穂数は少ない。早植、普通期を総じて草型は偏穂重型である。両作期とも、多収である。

表 奨励品種決定調査における成績

作期	品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	精玄米収量 (kg/10a)	比較比率 (%)
早植	やまだわら	8.10	9.30	87	20.8	340	711	130
	コシヒカリ	8.3	9.12	91	20.3	438	549	100
普通期	やまだわら	8.24	10.16	84	22.0	327	796	150
	キヌヒカリ	8.19	10.3	91	17.2	400	532	100

注) 1. 数値は平成20年度の結果

2. 移植期は早植:5月13日、普通期:6月23日